

Press Release

提言「スポーツ現場における心臓突然死をゼロに」

2018年4月26日

日本循環器学会 日本 AED 財団

日本循環器学会と日本AED財団は、スポーツ中に心臓発作を起こして亡くなる突然死をなくすため、救命に欠かせないAEDを倒れてから3分以内に使えるよう会場やコースに配置するなど、体制の整備を求める提言をまとめました。

スポーツと心臓突然死

スポーツ現場では心臓突然死のリスクが安静時の17倍まで高まります。その多くは心室細動という不整脈によるもので、それを止めるにはAEDによる電気ショックしかありません。しかしそれが1分遅れる毎に1割ずつ救命率も低下し、10分を過ぎると救命は困難となります。

救命の条件とは

もし心停止が起こっても、3分以内に電気ショックを行えば、およそ7割の人の命を救うことができますが、それには心停止で倒れる瞬間を目撃、そばに救助者がいる、そして近くにAEDがある、といった3条件が必須となります。周到的な準備をすれば突然死をゼロにすることも夢でなく、実際、東京マラソンでは過去12回の大会で11名中11名の全員が心停止から救命されています。

準備態勢の構築

スポーツイベントでは、心停止が起こる可能性を想定内と捉えることが重要で、その発想のもとに、開催者や参加者が事前に周到的な準備をすることが望まれます。参加者への教育や、救助チームの組織化と共に、どの場所でも2分以内にAEDを届けられる環境作りもポイントとなります。

オリンピック・パラリンピックに備えて

日曜ランナーから本格的な競技選手まで、皆が安心してスポーツを楽しみ、競い合うことができる環境を整備し、安全安心な国ニッポンを目指したいものです。

[本提言への支持団体]

公益財団法人 日本スポーツ協会 (JSP0)

2020年東京オリンピック・パラリンピックに係る救急・災害医療体制を検討する学術連合体 (AC 2020)

[問い合わせ先]

一般社団法人 日本循環器学会 itc@j-circ.or.jp TEL 03-5501-0861

一般財団法人 日本 AED 財団 info@aed-zaidan.jp TEL 03-3253-2111